

関西学院大学 研究成果報告

2024年5月31日

関西学院大学 学長殿

所属：人間福祉学部
職名：教授
氏名：今井小の実

以下のとおり、報告いたします。

| | |
|--------|---|
| 研究制度 | <input checked="" type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。 |
| 研究課題 | 社会福祉の歴史研究による社会福祉学原論への貢献 |
| 研究実施場所 | 自宅, 図書館・公文書館・フィールドワーク先など |
| 研究期間 | 2023年4月1日 ～ 2024年3月31日 (12 ヶ月) |

◆ 研究成果概要 (2,500字程度)

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本年度、研究課題「社会福祉の歴史研究による社会福祉学原論への貢献」の遂行は、編集幹事として数年前からかかわってきた『エンサイクロペディア 社会福祉学 増補版』(仮)(中央法規出版、刊行が遅れている)の編集と執筆作業を中心に実施してきた。同事典は、2007年12月刊行の社会福祉学並びに関連領域の研究者、学生などに向けて、鳥瞰図的な視野から社会福祉学研究の現状を明らかにしつつ、将来展望についても可能な限り示すことを意図して出版された『エンサイクロペディア』の増補版として企画された。報告者は、社会福祉学界の研究をけん引してこられた6名の先生方とともに、この事典の編集幹事として編集作業に関わってきた。編集代表は社会福祉学原論の第一人者と目される古川孝順氏であり、報告者は金子光一氏と歴史部門の専任を務め、実際の項目、内容について検討し、提案を行ってきた。

その骨格が決まり、執筆者選定が終わった2023年度には、翌年の刊行をめざし、執筆者と会議を重ねながら、事典の完成に向けて着実に歩みを進めてきた。すなわち、歴史部門を三つの柱から構成すると決め、1つめの「社会福祉史研究の方法と対象」は報告者が執筆し、2つめの「社会福祉史研究の対象の広がり」には、①黒人の側から見たアメリカの福祉の歴史、②地方史として新たに沖縄の社会事業史、③植民地社会事業の歴史も項目に入れるなど、あらたな福祉の歴史の対象の広がりを示した。また3つ目として「社会事業の独自性」を設定し、2人の研究者にそれぞれ独自性を追求した論文を依頼した。この項目の目的は、近年他分野から従来の社会福祉の研究の対象への接近が見られ、両者の違いを福祉の歴史研究に限定して明らかにすることにあったが、編集会議での議論や論稿などを通じた対話によって報告者自体も

思索を深めることができた。さらに担当の「**社会福祉史研究の方法と対象**」を執筆するために、歴史学の研究方法、根拠となる理論史、とりわけポストモダンの功罪について深く学び、社会福祉の立ち位置を確認することができた。歴史部門の原稿は予定通り揃えることができたが、他部門の遅れがあり、2024年8月に予定されていた刊行が大幅に遅延する可能性もある。しかし、この事典が発刊されれば、ここで示された歴史研究が社会福祉学の原論の構築に貢献できることは明白で、報告者がこの歴史部門の編集幹事として企画・編集にかかわったこと、また執筆作業そのものが、「社会福祉の歴史研究による社会福祉学原論への貢献」という特別研究期間のテーマの実践そのものだったといえる。

また同事典の重要な項目の一つである、社会福祉の歴史の独自性を探求するために、近代国家形成期の福祉実践のパイオニア的存在“北海道バンド”と称されたキリスト教教誨師の監獄改良の実態について現地へのフィールドワークを行った。すなわち6月から7月にかけて北海道で9日間(6月23日～7月1日)のフィールドワークを行い、資料収集、現地調査を行った。その報告は「**北海道フィールドワーク報告書－開拓と集治監の歴史を歩く－**」として2万字のレポートにして、人間福祉学部の紀要『Human Welfare』に投稿、掲載された。

12月には、『エンサイクロペディア』の歴史部門の目玉の一つである、沖縄社会事業について理解を深めるために、現地に赴き、沖縄戦跡、基地、社会福祉機関を訪問し、さらに平和学習にも参加して、沖縄の歴史のみならず、現実の沖縄問題についても理解を深めた。

さらに長年、史資料整理と共同研究に取り組んできた児童養護施設博愛社の研究についても、4人の編集者とともに執筆、編集を担当し12月に六花出版から『**大阪児童福祉の先駆 博愛社の史的研究**』として刊行を果たしている。また20年以上も行ってきた史資料整理の成果の一環とも言える、一部資料についても同出版社から刊行することになった。これら一連の研究成果の刊行についても、編集会議、作業を行うなど多くの時間を割いてきた。社会福祉の独自性、原論を構築するためにも実践の歴史の検討は欠かせないが、当該研究はそれに大きな貢献を果たしたと考えている。報告者は、「**鳴尾記念母の家**」の創設と大阪社会事業として、なかでも児童養護施設としてすでに内外で評価されていた博愛社が、なぜ新たに母子保護事業「母の家」創設を企図し、実際に創設したのか、その意図を大阪の社会事業との関係から明らかにした。そしてその背後に、大阪社会事業連盟の研究部が大きく影響を与えていることを確認し、研究と実践の往復作用が必要だとされてきた社会福祉原論の主張の正当性を証明することとなった。またこの研究成果は、現在も大阪で児童保護の施設として重要な役割を担っている博愛社にて、講演会を開催していただき、広く一般公開もおこなっている。

その他、『**図書新聞**』より林凌氏『〈消費者〉の誕生—近代日本における消費者主権の系譜と新自由主義—』(以文社)に対する書評の依頼を受け、**書評「新自由主義批判のための新たな〈武器〉となるか**」を執筆した。この書評のために、あらためてM.フーコーの本を読むなど、社会福祉学でも受容されてきたポストモダンの理論、手法について学ぶことができた。

最後にこれらの研究成果を纏めておく。

- ・書評「新自由主義批判のための新たな〈武器〉となるか——消費者を新たな思索へといざなう挑戦的研究」『**図書新聞**』No.3613, 2024年11月4日号。
- ・共編著『**大阪児童福祉の先駆 博愛社の史的研究**』(今井担当:「**鳴尾記念母の家**」の創設と大阪社会事業)六花出版, 2023年12月。
- ・報告「**北海道フィールドワーク報告書－開拓と集治監の歴史を歩く－**」(pp127-140)人間福祉学研究会編『**Human Welfare**』第16巻第1号, 2024年3月。
- ・事典(編集幹事)『**エンサイクロペディア社会福祉学 増補版**』(仮), 2024年8月刊行予定。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。